

特別展 東洋のガラパゴス 小笠原

—固有生物の魅力とその危機—

10月31日(日)まで開催

小笠原は、地球上でそこにはしか見られない「固有生物」の宝庫です。この特別展では、小笠原の成り立ちから、そこに生息する固有生物たちの魅力を伝えるとともに、人間が住み始めてから次々と彼らを襲った危機的状況と、自然回復のための精力的な取り組みを紹介します。

★特別展観覧料 20歳以上(学生を除く) 200円
20歳未満・学生 100円
高校生以下・65歳以上 無料

★展示解説 9/19・10/10(日) 11:00～・13:30～

・・・予告・・・

企画展 +2°Cの世界

～縄文時代に見る地球温暖化～

12月18日(土)～2005年2月27日(日)

催し物のご案内

● 野外観察「身近な自然発見講座」[博物館周辺]

日時/10月13日・11月10日・12月8日(いずれも水)にそれぞれ開催
10:00～15:00

対象/一般(人数制限なし)

申込不要、当日博物館集合。雨天中止。

● 野外観察「キノコウォッチング」[相模原市木もれびの森(雨天時は博物館)]

日時/10月16日(土) 10:00～15:00

対象/小・中・高校生 30人

申込締切/10月1日(金) 消印有効

● 県立機関活用講座「島の自然学」[博物館]

日時/10月23日(土)・24日(日)・30日(土)・31日(日)

連続講座 10:00～15:00

対象/一般 50人(大人向き)

受講料/5,000円

申込締切/10月5日(火) 消印有効

● 室内実習「動物のからだのしくみを知ろう(2)」[博物館]

日時/10月30日(土)・31日(日)

連続講座 10:00～15:00

対象/小学4年生～高校生 10人

申込締切/10月15日(金) 消印有効

● 野外観察「秋の地形地質観察会」[城山町方面]

日時/11月3日(水・祝) 10:00～15:00

対象/小学生以上 40人

申込締切/10月19日(火) 消印有効

● 日本鞘翅学会公開特別講演「昆虫における移入種問題とその背景」[博物館]

日時/11月20日(土) 13:45～14:45

対象/一般(大人向き) 事前申込不要

● 日本鞘翅学会公開シンポジウム「神奈川県産甲虫 5,000種達成には？」[博物館]

日時/11月21日(日) 13:30～16:00

対象/一般(大人向き) 事前申込不要

● 室内実習「ダイバーのための魚類学入門」[博物館]

日時/12月12日(日)・19日(日)

連続講座 9:30～16:00

対象/一般 10人(大人向き)

申込締切/11月26日(金) 消印有効

● 企画展関連講座「かながわで見られる縄文の海岸線と自然」[博物館と三浦市三崎町諸磯周辺]

日時/12月18日(土)・19日(日)・23日(木・祝)

連続講座 10:00～15:00

対象/中学生～大人 30人

申込締切/12月1日(水) 消印有効

● 野外観察と室内実習「動物の行動観察入門—動物ビンゴゲームに挑戦—」[博物館と箱根湯本]

日時/1月15日(土)・16日(日)

連続講座 10:00～15:00

対象/小・中学生と保護者 20人

申込締切/12月24日(金) 消印有効

ライブラリー通信

Bonin Islands

小笠原をテーマに特別展が開催されるので、ライブラリーでも小笠原関係の図書を何冊か整理しました。そのなかに Bonin Islands と書いてあるものがあり、英和辞典を引いてみると、小笠原諸島、とありました。なぜ小笠原諸島が Bonin Islands という呼び方をされるのか、不思議に思い調べてみました。

小笠原諸島が Bonin Islands と呼ばれるようになったいきさつについては、田中弘之氏が『幕末の小笠原』(中央公論社 1997)のなかで、フランスのアベル・レミューザが1817年、フランスアカデミー機関誌に「BO-NIN 諸島」の音記を発表して以来、小笠原諸島の洋名が「ボニン」としてアロウスマスの地図などに採用され定着した、と書いています。

なぜボニンなのかという点については、『小笠原の自然—東洋のガラパゴス』(古今書院 1992)のなかで船越眞樹氏が、幕府は江戸時代初期に島々を「無人島(ぶにんしま)」と名づけた。「ぶにん」が「ボニン」に転化したと考えられている、と書いています。

また、延島冬生氏は『小笠原研究年報 20』(東京都立大学小笠原研究委員会 1996)に、「無人島はぶにん島か、むにん島か」というタイトルで書いています。日本語の「ぶにん」は人手の少ないという意味に使われ、「むにん」は住む人のいないことを指すから、無人島は「むにん島」と読むのが正しい。よって「ぶにん」から「ボニン」になったという説は正しくない。「むにん」から「ボニン」という言葉が外国で生まれたのであって、日本語が外国語になった数少ない例であろうと結論付けています。

小笠原という島名については、延島冬生氏は『小笠原 100 の素顔 I ボニン』(東京農大出版会 2004)のなかで、幕末に外国と交渉するときに、無人島という名前では権利を主張しにくいので、幕府が発見者とされている人の名前をとって呼ぶようになったと書いています。

(司書 篠崎淑子)

催し物への参加について

特に記載のないものは参加無料です。また、記載のある場合を除き、事前申込が必要です。応募多数の場合は抽選となります。参加方法や各行事の詳細については、下記の連絡先までお問い合わせください。ホームページでも詳細を見ることができます。

申込・問合せ先

神奈川県立生命の星・地球博物館

企画情報部

〒250-0031 小田原市入生田 499

電話 0465-21-1515

電子メール plan@nh.kanagawa-museum.jp

ホームページ http://www.city.odawara.

kanagawa.jp/museum/g.html